

令和4年度第10回市政懇談会 会議録（要旨）

【日 時】 令和4年8月8日（月） 18時30分 ～ 19時50分
【場 所】 原ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者 4名 宇部市地域学校協働活動推進員 : 中谷 淳子 第二原ニュータウン自治会会長 : 前田 隆義 宇部市老人クラブ連合会若手部部長 : 大野 三千代 原地区自治会連合会会長 : 金重 和義 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、原ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】 1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○原地区地域学校協働活動推進本部の立上げと運営について 【地域学校協働活動推進員】 ・黒石中学校区での地域学校協働活動として様々な行事を実施し、地域住民と中学生の交流を行うことで、地域の活性化につなげてきた。今後、これまで実施した行事の一つである「学習会」をより充実させていくため、高校生、専門学校生、大学生にボランティアとして参加してほしい。 ・学生ボランティア確保のため、高校や大学などと協力体制をつくり、人材派遣を依頼するための連絡先一覧を作成してほしい。 ・地域住民への情報発信や地域団体への協力要請を円滑に行うため、原地区に居住し長期継続勤務が可能な「地域担当職員」を、ふれあいセンター内に配置してほしい。 【市長】 ・地域の人材確保の方法として「学校教育活動支援ボランティア制度」があるので、活用を検討していただきたい。 ・本市では、市内の大学、高専、高校等との連携を進めるため、今年度から「連携共創推進課」を創設したので、同課から大学等の窓口を紹介させていただく。 ・地域担当職員の配置に関しては、地域が推薦する人を市職員として雇用するのは難しいが、各地区で協議の上、各地区で作成している地域計画に必要性等を盛り込むことで、雇用に係る費用についても予算を計上することができるので、まずは地域支援員に相談していただきたい。

○バブル期前後に造成された団地のライフラインの機能維持について

【第二原ニュータウン自治会会長】

- ・団地内の大型合併浄化槽や上下水道管等について、設置から40年が経過して老朽化が進み、維持管理費も年々増加しているため、住民から徴収する利用料を引き上げるなどで対応している。
- ・地上にある浄化槽の機械は修理をしながら使用しているが、地下の管渠については劣化状況の調査ができていない。
- ・万一の事態に備えて積み立てもしているが、大規模修繕ができるほどの余裕はない。
- ・今後、地震等の災害によって地下の管渠が破損した場合、高額の復旧費用が生じることが予想されるが、修理の発注から費用の負担まで全てを自治会で行うことになるのではないかと危惧している。ライフラインの破損による復旧及び維持管理は、市主体での実施をお願いしたい。

【市長】

- ・上水道管に関しては、道路部分に埋設されている給水装置が破損した場合、市水道局の負担により復旧及び維持管理を行う。
- ・下水道管については、昭和57年開発時の開発業者に所有権がある状況である。しかしながら、これからの高齢化、人口減少社会において、自治会だけで費用負担をすることは、持続可能性の点からも困難と考えられるので、今後、自治会と市下水道担当部局で意見交換の場を設け、検討していきたい。
- ・県内に団地内の合併浄化槽の設置や維持管理を行っている自治体はないが、補助制度を設けている自治体はある。他市の状況も参考にしながら、支援の仕組みづくりを前向きに検討していきたい。
- ・管渠について、県内で支援を行っている自治体はないが、本市としては何らかの対策が必要であると考えているので、今回の提案を機会に検討を始めたい。

○子どもから高齢者まで世代を超えて集える憩いの場について

【老人クラブ連合会若手部部長】

- ・原地区の高齢化率は約35%、自治会によっては50%のところもあり、今後ますます高齢化が進んでいく中で、健康の維持と世代を超えた交流の場が必要と考える。
- ・5年前までは原地区にもスポーツ広場があり、グラウンドゴルフをする人などでにぎわっていたが、現在はスポーツ等を実施できる場所がない。
- ・小学校の空き教室の開放や、サロンが開催できる場所、徒歩で行ける運動公園の設置等をお願いしたい。

【市長】

- ・空き教室の開放を含めた学校施設の利用については、管理者である学校の下承が必要であるが、部外者の出入り等、安全面に課題があるため、防犯カメラの設置による安全対策の充実を図る等を検討しながら学校と協議をすすめたい。
- ・山口市の空き家を地域活動の拠点として活用している例も参考に、本市でも検討して

いきたい。また、市にも空き家情報があるので、必要であれば提供が可能である。

- ・運動公園の整備に関しては、他地区からも要望が出ているので、地区内でいくつか候補地を挙げただけであれば、将来的に検討していきたい。
- ・昨年の市政懇談会で、厚南エリアには子どもや高齢者が利用できる公園がないとの話があったが、市では候補地が見つかっていない状況である。ただ、厚南エリアは水害のリスクが高いため、防災拠点としての公園を整備したいと考えており、今後、厚南4地区の代表者による協議会を立ち上げ、検討を行う予定である。

○地区要望の状況確認について

【自治会連合会会長】

- ・避難所である原小学校に防災倉庫を設置し防災用品の配備をお願いしたい。
- ・国道190号線沿いに原小学校やふれあいセンターへの案内看板がなく、地元以外の人には場所がわかりにくい。避難所にもなっているのでぜひ案内看板の設置をお願いしたい。
- ・ふれあいセンターの和室をフローリングにして、移動式の畳で使い分けができるようにするなど、利用者が使いやすく稼働率が向上するように設備の改修をお願いしたい。
- ・若者の定住促進支援対策をお願いしたい。

【市長】

- ・防災用品については、必要最小限のものを各避難所に置き、残りは厚南エリアの防災拠点となる公園を造り、防災倉庫を設置して集中管理することを検討している。
- ・ふれあいセンターは避難所であり防災拠点となるので、より効果的に使ってもらえるよう施設改修の整備等を検討していく。
- ・若者の雇用創出のため、医療や宇宙関連産業等の成長産業の育成に取り組み、既に宇宙関連のベンチャー企業も立ち上がっている。医療産業に関しても山口県や山口大学と協力して市内への医療関連企業の誘致を進めている。また、令和4年8月からは小中学生の医療費無償化も開始している。